

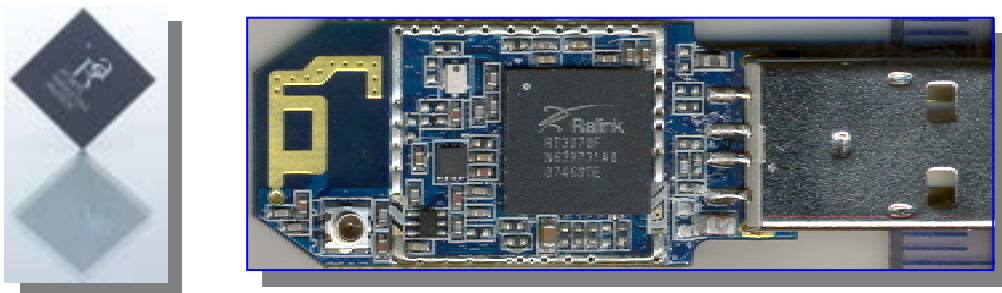
平成 20 年 3 月 3 日

報道関係者各位

加賀電子株式会社
(東証一部:8154)

加賀電子、台湾の無線 LAN 半導体メーカー
「Ralink (ラリンク) 社」の国内における販売代理店契約を締結
～日本企業初、国内家電メーカーに向けて販売活動を開始～

独立系エレクトロニクス総合商社の加賀電子株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長 塚本外茂久、以下、加賀電子)は、台湾の無線 LAN 半導体メーカーで、既に数多くの大手 PC 周辺機器メーカーに採用されている、『Ralink Technology Corp.』と日本企業初の国内販売代理店契約を 2007 年 11 月に締結し、国内家電メーカーなどを中心に販売活動を展開することとなりました。加賀電子は、その販売先として現在高機能化が進み、インターネット接続サービスを開始しているデジタルテレビ市場に着目し、「HD ストリーミング」に対応した同社の無線 LAN 半導体を、豊富な販売ルートを活かして提案してまいります。



Ralink 社製無線 LAN 半導体モジュール (イメージ)

「Ralink」社は 2000 年にアメリカのシリコンバレーで現会長の Chris Kao 氏が創業し、現在台湾に本社を置くファブレスの無線 LAN 半導体メーカーです。2002 年より IEEE802.11x に準拠した無線 LAN 半導体を出荷し、既に海外及び国内大手 PC 周辺機器メーカーなどにも採用され、月産 300 万セット、出荷・累計 7,000 万セット個以上の無線 LAN 半導体をこれまでに提供しております。

この度の加賀電子との販売代理店契約の締結は、加賀電子グループの持つ豊富な販売ルートを用いて、これまで「Ralink 社」が展開できなかった国内家電メーカーに向けて、次世代無線 LAN 『IEEE802.11.n Draft2.0』に準拠した半導体をデジタルテレビ市場へ提案してまいります。

■ 無線LAN需要の背景

現在の液晶テレビやプラズマテレビには、アクトビラ・サービス (VOD サービス) の機能が入っており、そのサービスを利用する為にはインターネットの接続が必要となります。

しかし、ユーザーはテレビにインターネットをつなげる際、ケーブルの引き回しなどの『煩わしさ』により、高機能化が進んでいるデジタル家電をこれまでのテレビと同様の機能でしか利用していないという実態があります。

また、既にパソコン周辺機器として無線 LAN は普及しておりますが、今日の規格 (IEEE802.11.a/b/g) では HD ストリーミングに対応スピードが不足しており『高画質での視聴ができない』状況が存在します。

■ Ralink 社製 無線LAN半導体の特徴

Ralink社の無線LAN半導体を利用することにより、上記の問題を解決できます。

- ①ケーブルの引き回しなどの煩わしさを、「無線 LAN」を使うことによって解消
- ②次世代規格 (IEEE802.11.n) により 300Mbps 以上のデータ転送が行え、HD ストリーミングが可能

■ 更なる付加価値の創造・・・

また、この技術を使って AV 機器とパソコン機器との接続など、今までのパソコン市場だけではなく、新しい分野への販売に注力してまいります。また将来的にはモバイル端末・ゲーム端末などへの展開も視野に入れた販売活動を展開いたします。

■ Ralink Technology Corp.について

創 業:2000 年

本 社:台湾・新竹県 (本社及び開発センター)、

支 社:米国・カリフォルニア州 Cupertino

従 業 員:220 名

事業内容:無線LAN半導体の企画・開発・製造・販売

◆このリリースに関するお問合せ先

加賀電子株式会社 (URL : <http://www.taxan.co.jp>)

〒113-8503 東京都文京区本郷2-2-9

TEL : 03-4455-3119 FAX : 03-3816-5468

Gr. 事業戦略室 事業推進グループ 営業担当 近藤 淳 (a_kondo@taxan.co.jp)